

学位記番号： 修士第52号

氏名（本籍）： 坪田明子（滋賀県）

学位の種類： 修士（看護学）

学位授与年月日： 平成16年3月25日

学位論文題目： 母親の第1子に対する養育意識とその影響要因—第2子妊娠中における分析—

論文内容要旨

※整理番号	53	(ふりがな) 氏 名	つぼた あきこ 坪田 明子
修士論文題目	母親の第1子に対する養育意識とその影響要因 —第2子妊娠中における分析—		
<p><研究の目的> 本研究の目的は、第2子妊娠中の母親の第1子に対する養育意識とその影響要因について、妊娠各期の特徴を明らかにすることである。それらが明らかになることで、第2子妊娠中の母親に対し、いつどのようにかかわれば良いか、妊娠期に応じたケアにむけて根拠を提示することができる。また、経産婦に対する育児支援において、援助のあり方を検討する基礎資料を提供することができると思う。</p> <p><方法> 本研究は、構成的質問紙法を用いた量的研究である。第1子が4歳未満で、20歳以上40歳未満の第2子妊娠中の母親を対象として、妊婦健康診査時に横断的調査を行った。調査内容は、母親と第1子の属性、妊娠の受容、夫との関係、実母との関係、経済状況への満足度、母親の第1子への養育意識である。養育意識について、「育児生活へのストレス」「否定的育児行動」「育児肯定感」の下位因子からなる養育意識・行動尺度と、「子育て満足感・生きがい感」「子育て負担感・不安感」「子どもイメージ」の下位因子からなる子ども観尺度を用いた。夫との関係、実母との関係、妊娠の受容もそれぞれ既存の尺度を使用した。データは、統計的に分析を行った。</p> <p><結果> 第2子妊娠中の母親の第1子に対する養育意識は、妊娠初期、中期、後期の3群においてほぼ同じ様相であった。影響要因については、母親の第2子妊娠への受容状況と、夫との関係が、養育意識に影響することが明らかとなった。妊娠各期で見ると、妊娠初期と中期は、実母との関係が良いことが育児肯定感を高くしていた。妊娠後期は、とくに夫との関係良いと育児生活へのストレスが軽減していた。児の属性では、妊娠初期の女児の母親は、男児に比べて育児肯定感が低く、初期と後期の2歳児をもつ母親は、養育意識の否定的な側面が高くなっていた。</p> <p><考察> 第2子妊娠中の母親に対して、援助者は、母親が妊娠を受容でき、夫が母親にとって重要な存在であることを自覚できるように、かかわっていくことが必要であると考えた。また、妊娠初期はとくに実母との関係、後期はとくに夫との関係が養育意識に影響しており、初期は実母と良好な関係があるかを把握すること、後期は夫婦で2児の親となることへの準備ができるようかかわる必要があると考えられた。その機会として、妊婦健診や両親教室があげられた。第1子の属性では、2歳児をもつ母親と、妊娠初期の女児の母親について、配慮が必要であることが示唆された。</p> <p><総括> 本研究では、第2子妊娠中における、母親の第1子に対する養育意識への影響要因について、妊娠各期の特徴が明らかになった。第2子を迎える移行期において、妊娠中の母親にいつどのような援助が必要であるか、その一端を示唆することができたと言えよう。この時期の母親の心理的特徴を理解し、母親が第2子妊娠という危機的な状況をスムーズに乗り越えて、新たな家族を健全に形成していけるよう援助していくことが大切である。</p>			